長門の話題 Topics

子育て体験交流in大津緑洋高校
未来のパパ・ママと交流

9月14日(木)、大津緑洋高校大津校舎で、「未来のパパ・ママ！子育て体験交流in大津緑洋高校」が開催されました。

これは中学・高校生に結婚や出産、子育てを身近に感じてもらおうと山口県が主催したもので、村岡知事を交え、生徒24人と乳幼児の親子14組による交流が行われました。

生徒は子育ての苦労やうれしかったことなどの話を聴きながら、実際に乳幼児を抱いたり、おもちゃで遊んだりしてふれあいを楽しみました。

この日は育児休業中の教員から子育ての体験談も話され、生徒は「将来はパートナーと互いに支えあって子育てに励みたい」と話していました。

▲おもちゃで遊びながら、乳幼児とふれあう生徒たち

▲育児休業中の教員から子育ての体験談を聴く

地域旅開発講演会「ながとで楽しむ旅づくり」
地域旅で新たなおもてなしを

9月8日(金)、物産観光センターで地域旅開発講演会が開催され、約50人が参加しました。地域旅とは、地域が主体となり、その土地ならではプログラムを提供する取組で、講演では、一人ひとりの郷土愛や行動力こそが地域資源で、地域のブランドを形づくることなどが紹介されました。

▲（株）ジェイティービーの山下真輝さんが講演

深川幼稚園の園児がピオーネを収穫
大きく育った実に感謝

9月12日(火)、深川幼稚園の園庭に実ったピオーネを園児たちが収穫しました。毎日の食事に感謝する気持ちを育もうと実施されたもので、年長組の40人が参加し、協力して収穫を楽しみました。ピオーネは、この日の給食として全園児に振る舞われました。

▲大きな実を協力して収穫

長門の人 People

世代を越えてハロウィンを楽しもう
久永（ひさなが） 信也（しんや） さん
（ぼくらの長門 代表／東深川在住）

仙崎地区交流拠点施設「センザキッチン」オープンの翌週、同地区では市内初のハロウィンイベントが企画されています。

主催は市内の若者で構成された「ぼくらの長門」、代表の久永さんが、地域を盛り上げ、引っ張っていける人材を育もうと6年前に立ち上げた団体です。何か新しいことをしたい、まちの元気を創出したい、そんな思いを共有する場として、現在は月に一度、市内外の若者が集う異業種交流会を開催しています。

昨年秋の交流会で、仮装を楽しむ企画を行った際、参加者のハロウィンへの関心の高さを知ったという久永さん。「家族で楽しめるイベントに仕上げ、多くの人と一緒にハロウィンを楽しみたい」と意気込みます。

「ながとハロウィン2017」は、10月15日(日)15時スタート。仙崎公民館を出発し、みすゞ通りを練り歩く仮装パレードを行うほか、センザキッチン敷地内では、お化け屋敷や仮装コンテストなどが予定されています。

▲10月15日（日）15時集合でパレードが実施される

旬な人

西日本やきとり祭りin長門
ご当地やきとりを求めて行列

8月26日(土)、27日(日)の二日間、湊魚市場を会場に「西日本やきとり祭りin長門」が開催されました。福岡県や愛媛県などから西日本のやきとり店12店舗が長門市に集結し、訪れた約5万8千人の来場者は各地のやきとりを食べ比べるなど、こだわりの味を堪能しました。

▲ご当地の味を求め、多くの人が列に並んだ

今年で420年を数える伝統の赤崎まつり
華やかに舞い、桟敷を彩る

9月10日(日)、赤崎神社楽桟敷で赤崎まつりが開催され、奉納神事として式三番叟、楽踊り「虎の子渡し」「月の前の伶楽」、湯本南条踊りが披露されました。牛馬の疫病が流行した慶長元年に、赤崎神社に祈願し病気が治ったことから感謝の気持ちを形にしたことで始まったものです。

▲藤中楽踊保存会が奉納した月の前の伶楽